

大フォーラム実行委員会ニュース

しせつやびょういんにすみたくない！

みんなとなかよくこのまちでいきたい！！

「骨格提言」の完全実現を求める 10.30 大フォーラム実行委員会 2018 年 12 月 30 日発行
【事務局・問合せ先】 〒154-0021 東京都世田谷区豪徳寺 1-32-21 スマイルホーム豪徳寺 1F
自立生活センターHANDS 世田谷気付 TEL 03-5450-2861 / FAX 03-5450-2862 / Email hands@sh.rim.or.jp

「骨格提言」の完全実現を求める 10.30 大フォーラム つくいやまゆりえんじけんをわすれない



2018 年 10 月 30 日に、「骨格提言」の完全実現を求める 10・30 大フォーラムが日比谷野外音楽堂で開催されました。相模原の津久井やまゆり園事件から 2 年以上が経過しましたが、「事件を風化させてはならない」「大規模施設や病院から地域に出せ」と、全国から約 500 人が集まり、切実かつ力強い発言が多くありました。

ご賛同・ご協力くださいました皆さんに、報告ニュースをお送りします。

【実行委員長メッセージ（要旨）】

国は骨格提言を無視して弱いものいじめばかりしています。やまゆり園事件から 2 年半が過ぎようとしています。事件当初はヘイトクライムの問題や優生思想の問題がマスコミで取り上げられていましたが、今はほとんど取り上げていないのが現状です。

障害者権利条約や差別解消法ができ、私たちの武器に使えると思ったのですが、国はないがしろにして虐待やイジメがますます多くなっています。知らず知らずの間に年金の額は減らされ、生活保護の基準額もどんどん減らされています。一方、病院では医療費の削減という名目で地域ケ

アの充実などというあいまいな言葉を使って、重症患者を放り出しています。施設では相変わらず暴力事件が絶えません。

大フォーラムでは10月5日に厚生省交渉を行いました。テーマは難病者の補償問題と地域のヘルパー不足の問題にしばって行いました。なんの具体的な方策なども出てきませんでした。厚生省交渉は年に3回ほど企画しています。

一方、地域ではヘルパー不足が深刻化しています。このままの状態では重度障害者の地域生活ができなくなると思います。国が示している地域包括ケアシステム「わがことまるごと」は全然当事者の存在を無視しているどころか、安上がり福祉を強制しようとしています。このままでいくと本当に介護ロボットや外国人ヘルパーが増えてくると思います。個人的な思いとしては、国会の前で無期限の座り込みを行い、国の責任を追及していきたいと思っています。もうこれ以上障害者イジメをやめろということをスローガンにしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

「骨格提言」の完全実現を求める10.30大フォーラム実行委員長 横山晃久

連帯アピール 広がる連帯の輪、多くの国会議員も

今年の司会は、一步の会から2名、CILくにたち援助センターの篠原由美さんとHANDS世田谷の村瀬恵さんが担当しました。



今年は、団体を代表しての連帯アピールを5名の方からいただきました。

病棟転換型居住系施設を考える会の長谷川和夫さんは「日本の精神科病院には未だ29万人の方が入院され、そのうち19万人が1年以上入院している方々、50年以上精神科病院に入院している人が1,773人いるという事が報じられた。ところが、日本精神科病院協会は、調査自体に協力しないということも検討せざるを得ないという声明文を出した。自分に都合の悪い事を報じられる事を封

殺しようとする動きというのは断じて容認できない」と精神科病院の姿勢について怒りを込めて報告しました。日本障害者協議会常務理事の増田一世さんは「今や、障害者の制度だけが前進することは考えにくい状況。医療や介護の後退も目を覆いたくなるものがある。この状況に問題や課題を感じている人たちがまとまって社会保障の後退を押しとどめていく運動が必要だ。」と指摘しました。

介護保障を考える弁護士と障害者の会全国ネットワーク共同代表、弁護士の藤岡毅さんは「自助・共助・公助をいたずらに強調する『我が事・丸ごと』政策。今の社会保障・国の政策の根本それ自体が障害者権利条約違反だ」と力を入れた発言でした。

反貧困ネットワーク代表世話人で弁護士の宇都宮健児さんは「人間らしい生活を守り私たちの生存権を守るため、生活保護制度の改悪を許さず、生活保護制度を充実させるため、ともに闘おう」と呼びかけました。

障害者自立支援法訴訟の基本合意をめざす会から、事務局長の太田修平さんが「強制不妊手術にも、政府機関の障害者雇用水増しにも強く抗議したい。皆さんと連帯しながら、真の共生社会の実現を図っていきたい」と訴えました。

国会議員は、共産党の高橋千鶴子衆議院議員、国民民主党の小宮山泰子衆議院議員、立憲民主党の川田龍平参議院議員、社民党の福島みずほ参議院議員、自由党の山本太郎参議院議員と、主要5野党から発言がされました。このほか、尾辻かな子衆議院議員も駆けつけてくださいました。



リレートーク～それぞれの闘いの現場から、骨格提言の完全実現を求める

現場からのリレートークはこの運動の大きな広がりを示すものとなりました。「施設はダメ！津久井やまゆり園事件を忘れない」として、小田島栄一さん、石田義明さん、佐々木信行さんとピープルファーストの皆さんから、しょうがいしゃ虐待が後を絶たないこと、いまだに入所施設がつくられていることに怒りが表明されました。

「強制不妊手術」に謝罪と賠償を」裁判原告の北三郎さんは「優生手術（旧優生保護法による強制不妊手術）が自分の人生をくるわせた。私の人生を返してほしい。」と訴えると同時に「全国の被害者に勇気を出して名乗りでてほしい。」と呼びかけました。CIL たすけっと事務局長、杉山裕信さんからは、2017年9月に仙台国際ホテルで働いている女性障害者が暴行を受けた事件で、被害者とホテル側で和解が成立した事と、優生手術被害者の支援活動についての報告がありました。

「リメンバー7.26 神戸アクション」からは2名の方が発言。「〈不幸な子どもの生まれない運動〉は終わったのか」として石地かおるさんは「1966年から1974年まで、兵庫県は障害者を不幸と決め付け、多くの障害者に強制不妊手術をやってきた。（過去の）強制不妊手術と、（現在の）出生前診断による障害児の堕胎は同じ問題で、障害者に対するヘイトでしかない」との訴え。「三田市監禁事件は終わっていない」として吉田明彦さんは「知的障害者は監禁されなければならない存在、監禁されても本人ではなく加害者の方にばかり同情と共感が集まることが当然とされ、被害者は忘れ去られていく、そのような存在だ」と指摘。「神経筋疾患ネットワーク」からは「なし崩しの新型出生前診断の診療施設要件緩和を許さない」とのアピールに続けて、津久井やまゆり園事件の被害者を思いをいたす歌「19の軌跡」を参加者とともに合唱しました。

「障害者65歳問題の解消を！」として裁判原告の天海正克さんは「65歳になったからといって、障害者福祉給付を打ち切ることは絶対に許さない。障害者がどこに住み、どんな生活を送るかは障害者自身が決定すること。障害者が社会参加を望むのであれば、障害者福祉給付の継続を保障

すべきだ。」と訴えました。「訪問介護の現場からの報告」、介護福祉士の伊藤みどりさんは「障害者、高齢者、介護労働者の人権を共通のものとして、骨格提言の完全実施に向けて私も訪問介護の現場からともに連帯したい」とアピールしました。

「病名で支援を区切らないで」、線維筋痛症友の会理事長の橋本裕子さんは「病名で支援を区切らないでと私たちはずっと訴えてきた。必要な時に、必要な人に、必要なだけ、福祉がいきわたるべきだ」。「年金を病名で差別するな」、1型糖尿病障害年金訴訟原告の西田えみこさんは「年金機構や厚生省が『糖尿病は生活習慣病で自己責任』と差別し、責任逃れをしている。訴訟を通じて国の責任を明らかにしたい」。在日障害者としての「年金制度の国籍条項を完全撤廃させる全国連絡会」代表・李幸宏（イ・ヘングェン）さんは「在日障害者などへの無年金は植民地支配の反省のなさの証明だ」と発言しました。



ここで、かたつむりよるダンスパフォーマンスが披露され、メンバーの井上晴菜さんの「私はぜったい施設に入りたくありません。地域で当たり前に生きることをあきらめません。」というアピールに続けて、全国公的介護保障要求者組合の木村英子さんから「障害者が地域で生きることを壊されないために運動の輪を広げよう」と呼びかけがありました。かりん燈関東の鶴峰まや子さんからは「生きている喜びを感じあえる介助じゃなきゃツライ」として、介助労働の中の葛藤や大フォーラムの3日前に実施された「介助者デモ」の報告がありました。

生活保護受給当事者の川西浩之さんは、10月から開始された生活保護基準の引き下げを批判。精神障害者権利主張センター・絆の山本眞理さんは「精神医療の全生活支配を許さない。国内外の攻撃に抗い、障害種別を超えた仲間とともにわたしたち自身の求める支援をそして骨格提言の完全実現を求め共に闘っていく」と訴えました。

集会アピールを満場一致で採択

リレートークの後、集会アピール案を障害連の尾上裕亮さんが読み上げ、満場一致で採択されました。

アピールの採択に続いて、司会のコールに合わせてシュプレヒコールをあげました。

野外音楽堂での集会終了の後、参加者は場所を厚生労働省前に移し、「津久井やまゆり園事件を忘れない！」「私たち抜きに 私たちのことを決めるな！」と1時間以上にわたってアピール行動を行い、2018年の大フォーラムは終了しました。

集会アピールとシュプレヒコールは、以下の通り。

【集会アピール】

ことし8月、ふくすうの行政機関がながねんにわたり、「うちは、しょうがいしゃの従業員が〇〇人います」という数値を、じっさいには少ないのにもかかわらず、おおく報告していたことが発覚しました。これはなにを意味するのでしょうか。労働、もっとひろい意味での「はたらく」、「なかまとかつどうする」という行為は、にんげんにとって、生きがいをもたらし、社会とのつながりをたしかめる重要ななみです。みほんになるべき行政機関が、それを意図的にきりすてていたのです。「しょうがいしゃはしょせん、自分たちとは働けない存在で、べつに生活したほうがいい存在である」と本心で思っているしょうがいしゃ排除のひとつのあらわれです。

本日の連帯アピールやリレートークでのべられたように、しょうがいしゃを社会からきりはなし、とおざけ、専門家まかせにしようとする動きは根強くあります。「しょうがいしゃや、こうれいしゃは施設生活でもしかたがない」とするくうきが世間でつよまったり、1970年代にあった「不幸な子どもの生まれない運動」をはんせいするどころか、ようごする発言が挙がっています。出生前診断におけるかくていしんだんをうけ、異常と判定されたひとの9割が中絶手術を受けています。それは一つに、しょうがいじを、けんじょうじとともにで育てる仕組みが極めてとぼしく、分離教育がいやなら支援しない行政の姿勢があります。しょうがいをもった子どもは別コースというのは、絶対に許してはなりません。

兵庫県・三田市でおきたしょうがいしゃ監禁事件では、再発防止策に専門家のかんよがひつようといわれています。本来、どうしたら家族介護でなく、しゃかいしげんをつかって本人が地域でくらしていけるかをひとりひとりが考えるべきではないのでしょうか。しょうがいしゃを専門家まかせして、とおざけないでください。

この1年、旧優生保護法のもとで強制不妊手術をされた人が、あいついで裁判をおこしています。旧優生保護法は1996年にはいしされましたが、はいしいこうも入所施設で不妊手術をさせられるなど、しょうがいしゃが子どもを育てることへの有形無形のひはんは今でもあります。過去の検証とどうじに、げんざいの監視が重要です。

厄介者、しょうがいしゃを排除するうごきは、ゾンビのようにこのくにに存在しています。政府は、ふくしえんの縦割りを解消するというびめいのもと「我がごと・丸ごと政策」をだんこうしています。この政策は、こども・しょうがいしゃ・こうれいしゃを一つにして、ボランティアの力もつかって支援するということですが、しょうがいしゃ排除の論理（ゾンビ）がしみついた役人を考えたばあい、それはうそとわかります。ほんとうは、公的責任をへらし、自助・共助をたより、てのかかるものや厄介者を一カ所にあつめる政策で、将来的に介護保険にとうごうしようとしています。わたしたちは、この隔離とかこいこみにてっいてきに闘わなくてはならず、しょうがいしゃ、こうれいしゃの自分らしい生活をれんたいしてまもらなければなりません。



日本にはさいわいなことに、骨格提言があります。骨格提言、「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」は2011年8月に、しょうがい当事者とかんけいしゃ55名がまとめたもので、ひとを線引きしない福祉施策をもとめており、一般市民としての権利をほしょうすることをじゅうして、福祉法を設計するように提言しています。この文章は、しょうがいがあってもひとの可能性にめをむけ、活動のはばをひろげる支援を打ち出しています。骨格提言はこうれいしゃにとっても通じるものです。

日本のげんせいけんは、骨格提言を過去のものとし、同提言とは真逆の政策をとっています。しかしわたしたちは負けません。戦争反対のはたをつよくふり、骨格提言をかたてにもって、これをどのように実現していくかを強く訴え、提案し続けます。そして、全国のしょうがいしゃの仲間、高齢者、介助労働者、市民とともに闘います

2018年10月30日

「骨格提言」の完全実現を求める 10.30 大フォーラム 参加者一同

【シュプレヒコール】

- ・ しせつやびょういんにすみたくない！
- ・ つくいやまゆりえんじけんをわすれない！
- ・ みんなとなかよくこのまちでいきたい！
- ・ 雇用水増しを許さない！
- ・ 強制不妊手術に謝罪しろ！
- ・ 憲法25条を守り、活かそう！
- ・ 優生思想反対！
- ・ 仲間を殺すな！虐待するな！差別するな！
- ・ しょうがいしゃとして堂々と生き抜くぞ！
- ・ 基本合意を守れ！
- ・ 骨格提言を実現しろ！
- ・ 私たち抜きに 私たちのことを決めるな！
- ・ 私たちはしょうがいしゃである前に人間だ！
- ・ 大フォーラムを続けるぞ！
- ・ 私たちは闘うぞ！



多くの賛同に支えられ、今年も大フォーラムは継続されました

2018年の大フォーラムも多くの賛同者の皆さんに支えられ、継続・実施することができました。心より感謝をするとともに、下記にお名前を掲載させていただきます。

「骨格提言」の完全実現を求める 10.30 大フォーラム 実行委員会

【賛同団体】(順不同) ピープルファーストジャパン／怒っているぞ！障害者切りすて！全国ネットワーク／難病をもつ人の地域自立生活を確立する会／兵庫県精神障害者連絡会／NPO こらーる・たいとう／CIL くにたち援助為センター／町田ヒューマンネットワーク／自立生活センター グッドライフ／自立生活センターたいとう／鈴木敬治さんと共に移動の自由をとりもどす会／ガチャバ

ンとともに生きる会／障害者の生活保障を要求する連絡会議（障害連）／特定非営利活動法人むく魔法陣／世田谷介助者ユニオン／日本脳性マヒ者協会「全国青い芝の会」／神奈川県障害者自立生活支援センター／自立生活センター立川／スペースえるぶ／NPO 法人たんぼぼ／一般社団法人 自立生活センター三田／自立生活センター北／自立生活センターHANDS 世田谷／福祉・介護・医療労働組合／風をおこす女の会／読書会通信／かりん燈関東／自立生活センター自立の魂（略してじりたま！）／心神喪失者等医療観察法（予防拘禁法）を許すな！ネットワーク／自立生活センター福岡／国立武蔵病院（精神）強制・隔離入院施設問題を考える会／全国一般労働組合東京南部フットワーク新宿分会／自立生活センター昭島／反貧困ネットワーク／ピープルファースト東久留米／基準該当事業所「新しい空」／三里塚闘争勝利 尼崎・伊丹実行委員会／部落解放同盟全国連合会茨城県連合会／自治労都東京都本部地域福祉ユニオン東京／東京南部労働者組合／NPO 共に結／NPO 法人 TOLI 協会／ゆにおん同愛会／全国公的介護保障要求者組合／怒っているぞ！障害者切りすて！ネットワーク関西／関西合同労働組合／ジョアン川崎／障害者団体定期刊行物協会／安心できる介護を！懇談会／CIL たすけっと／一般社団法人すばる／一歩の会／全国頸髄損傷者連絡会／全国一般労働組合東京南部トータルサポートたいとう分会／全国一般労働組合東京南部埼玉聴覚障害者福祉会労組（どんぐり労組）／山吹書店／病棟転換型居住系施設について考える会／精神障害者権利主張センター・絆／どんまい福祉工房／臓器移植法を問い直す市民ネットワーク／特定非営利活動法人あいえるの会／日の出福祉園／NPO 法人地域自立支援グループあん／全国一般労働組合東京南部ケアワーカー連絡会／他匿名 3 団体

【賛同個人】（順不同/敬称略）小西弘泰（医師）／須田雅之／浅野俊夫（京都退職教員職員の会会員）／高崎庄二／辻真弓／内田ひろき（柏市議会議員）／下元たか子（世田谷市民運動いち）／根本善之（世田谷地区労務局長）／中村公德（全国連北摂支部支部長）／川西浩之／古谷史子（読書会通信）／山口弥生／長谷川薫／阿井公夫（千葉県断酒会会長）／佐々木真紀／小野達雄（埼玉県所沢市）／柴田靖子（目黒区）／天野誠一郎／金丸博／中沢浩二（大阪府）／粕谷嘉子（NPO 法人世田谷さくら会）／西澤光治（東京・世田谷）／安藤裕子／橋本裕子（NPO 線維筋痛症友の会理事長）／坂根輝吉（京都ユーザーネットワーク）／杉本博幸／猪山固太郎／酒井修二／神矢努／横山道子（大阪府）／宮本博志／中澤悟／仲川啓介（特別支援学校教諭）／市川清美／長尾由美子（今、憲法を考える会）／松原康彦（新空港反対東灘区住民の会事務局長）／蔵淵克典／大野ひろ子（安心できる介護を！懇談会）／松井俊次／八幡孝雄／根間あさ子（精神保健福祉士・八王子）／大河原さき（福島）／宇田美津江／斎藤太郎／遠藤功子／相川幸子／小池洋子／堂園朝子（西東京市芝久保町）／小松健彦／亀山照美／黒田恵／佐久間登喜子／横田真人／大島秀夫／合田享史（フリーランスライター）／小金菜穂子（介助者）／山端弘一郎／松浦聡／岩野政樹／後閑一博（司法書士）／笠井素子（国立市）／鷹林茂男／森登美江（視労協）／今田守／込山真理子（NPO 法人えるぶ）／根本進／和田伸夫（全国一般東京南部）／本宮誠樹／金浦みつたか／大島美智子／富山洋子（千葉県）／前田實／蒲牟田桂子／高見元博（兵庫県精神障害者連絡会）／平田義夫／木下俊子／木村政紘（医師）／田村文子／岩崎晶子（怒りネット関西）／高橋亮也（神戸）／宮崎光子／吉武仁貞／吉武一貞（NPO 法人音楽療法センター）／石田勝啓（関西合同労働組合副委員長）／藤本孝一郎／米澤鐵志（広島原爆被爆者）／仲宗根朝寿（辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動）／蜜山純子／船山幸子／船山良成／川村望／山本由美子／林田吉智／座喜味盛純／桜井隆夫／志村紀夫／弥永修／和泉健一／松田耕典／佐々木伸良（関西合同労組執行委員長）／大和恒朗／梶原義行／柴田明（精神科医）／清水基／岸園正俊／山本俊彦／山本加代／橋本成子／中川清子／山本博

樹／古橋雅夫（関西共同行動）／竹内正三／大湾宗則（NoBase！京都の会）／守田敏也（フリーライター）／福山義和／山田耕作（京都府宇治市）／橋本利昭／竹田雅博／茂木康／天野博（不動産コンサルタント）／柴田鉄也（辺野古ブルー）／古賀滋（尼崎市民）／小川久美子／長谷川正夫／仲宗根史敏／小柳太郎（神戸市ヘルパー）／斉藤幸弘／蒲牟田宏（関西合同労働組合兵庫支部委員長）／中原令輔／山田昌子／磯田俊郎（兵庫）／江渡績／江戸信夫／中原一栄／三角忠／はまねかずお／槌田劭（京都）／八尋きよ子／木原壯林（若狭の原発を考える会）／森本忠紀（ハッキョ支援ネットワーク奈良）／白井美喜子／池村奈津子（平和のテーブル・京都）／浅井桐子／城正／田中徹／杉谷伸夫（向日市議会議員）／木戸進次（戦争をさせない 1000 人委員会・しが事務局長）／駒井高之（憲法を生かす京都の会事務局長）／野坂昭生／岩佐英夫（京都憲法会議代表幹事）／和泉正明（調布市）／高橋晶子（足立区）／名倉優子（稲城市）／狩野和繁（大田区）／今野辰男（青梅市）／瀧柳洋子／盛田容子／有馬秀雄／古賀典夫／内山智絵／他匿名 11 名

【会計報告】（2018 年 11 月 24 日現在）

《収入》

前年繰越金	353,011
賛同金（現金）	132,000
賛同金（振込）	275,700
記録集売上げ	3,600
カンパ	91,128
収入合計	855,439

《支出》

日比谷野音 10.30 会場費	125,250
日比谷野音付帯設備費	11,700
看板代・トラメガレンタル代	119,664
レンタカー（ガソリン代込）	7,800
発言者交通費・宿泊費	93,960
10.30 当日飲料（お茶、水、紙コップ）	3,530
会議費（会場使用、マイクなど）	17,540
郵送費用（チラシ、領収書など）	56,392
カラーチラシ印刷費	27,544
紙代、封筒、文房具、コピーなど	17,018
渉外費（6・30 関西集会、憲法 25 条集会）	14,080
支出合計	494,478

差引残高 360,961

※ 印刷費の未納分と今後のニュース発送費用など含めて今後 5 万円ほどの支出を見込んでいます。

※ 手話通訳は東京都の助成金で賄ったため支出はありません。

2019 年も大フォーラム継続のため、ご協力をお願いいたします！

郵便振替口座 00110-0-292158 加入者名 大フォーラム実行委員会

賛同 個人 1 口 ￥500 団体 1 口 ￥3,000

大フォーラムの行動予定や最新情報は、インターネットホームページをご覧ください！

<https://daiforamu1027.jimdo.com/>